

# 平成26年度酪農教育ファーム推進委員会の概要

本会議は3月24日、酪農教育ファーム推進委員会を開催し、平成26年度酪農教育ファーム活動事業報告並びに平成27年度同事業計画を協議し、決定した。また、平成26年度に設置した酪農教育ファーム専門委員会で、今後の酪農教育ファーム活動の方向性などを協議し、本年9月を目途に取りまとめることとした。

## 1. 平成26年度酪農教育ファーム活動事業実績

### (1) 酪農教育ファーム認証牧場の推移

年度当初の認証牧場数は299牧場であったが、うち18牧場が廃業等によって減少する一方、新たに認証を取得した牧場が12牧場あったため、年度末には293牧場となる見込みである(表1)。

(表1)

地域	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	前年差			
																うち新規	うち取消	うち移管	
北海道	27	30	43	45	49	51	50	53	50	51	53	48	51	56	55	-1	3	2	4
東北	17	17	20	20	20	20	34	44	38	42	43	43	39	42	41	-1	1	1	2
関東	25	29	37	38	40	43	43	45	49	60	65	68	72	70	68	-2	0	0	2
北陸	4	6	6	6	7	7	7	7	14	16	17	17	14	13	12	-1	0	0	1
東海	12	15	17	17	19	29	42	47	49	49	49	46	42	41	-1	3	1	4	
近畿	4	7	10	10	10	10	11	12	12	13	15	14	14	14	14	0	1	1	1
中国	7	9	10	11	12	12	14	15	14	17	18	19	17	16	19	3	3	0	0
四国	2	2	2	2	2	3	4	6	7	7	8	8	9	9	8	-1	0	0	1
九州	17	19	21	22	21	22	23	23	23	33	38	40	36	35	33	-2	1	1	3
沖縄	1	1	1	3	3	3	2	2	3	3	3	3	3	2	2	0	0	0	0
合計	116	135	167	174	183	200	217	249	257	291	309	309	301	299	293	-6	12	6	18

### (2) 酪農教育ファームファシリテーターの推移

年度当初の酪農教育ファームファシリテーター数は602名であったが、84名が退職や認証期間満了等により減少する一方、新たに57名が認証を取得し、年度末には574名(本会議管理を含めると576名)となる見込みである(表2)。

(表2)

地域	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	前年差			
								うち新規	うち取消	うち移管	
北海道	70	86	96	82	81	94	92	-2	14	15	-1
東北	60	67	75	71	81	85	84	-1	9	9	-1
関東	84	119	134	135	140	146	131	-15	11	26	0
北陸	38	39	40	40	38	40	37	-3	5	9	1
東海	69	75	90	77	80	80	78	-2	6	8	0
近畿	16	25	32	34	34	43	41	-2	3	4	-1
中国	19	24	31	26	23	26	26	0	2	2	0
四国	12	12	18	19	21	23	20	-3	2	5	0
九州	35	56	63	57	58	61	61	0	5	6	1
沖縄	4	4	4	3	4	4	4	0	0	0	0
合計	407	507	583	544	560	602	574	-28	57	84	-1

※他に中酪管理が2名で、計576名

### (3) 認証牧場での受入実績

26年度上期は、受入件数13,288件(前年比38.0%)、受入人数347,902人(同92.4%)と減少している(表3)。減少の要因としては、①調査票回収率の低迷、②受入実績の多い牧場の調査票未提出、③認証牧場の減少などが挙げられる。

(表3)

区分	25年度		24年度		23年度		22年度		21年度			
	件数(件)	対比	件数(件)	対比	件数(件)	対比	件数(件)	対比	件数(件)	対比		
幼稚園・保育園	245	85.6%	42.9%	16,718	79.4%	33.9%	403	21,055	805	49,340	445	37,102
小学校	1,092	88.0%	83.7%	67,660	92.2%	91.5%	1,241	73,404	1,304	73,967	1,190	76,952
中学校	569	86.6%	66.2%	34,093	83.1%	65.5%	657	41,011	859	52,078	713	52,165
高等学校	288	129.7%	59.3%	11,394	103.3%	75.8%	222	11,035	486	15,038	253	10,149
大学・専門学校	226	90.4%	74.1%	4,603	108.2%	58.2%	250	4,253	305	7,913	245	5,427
特別支援学校	129	82.2%	54.7%	3,187	81.2%	47.6%	157	3,926	236	6,699	153	4,181
子ども会などの団体	742	61.4%	51.9%	24,697	61.6%	51.5%	1,209	40,122	1,431	48,000	911	30,701
学校などの団体	3,391	81.9%	62.5%	162,352	83.3%	64.2%	4,139	194,806	5,426	253,035	3,910	216,677
個人・グループ	9,704	31.6%	24.1%	182,637	101.8%	47.0%	30,712	179,344	40,287	388,393	13,972	304,667
外国人のグループ	193	120.6%	38.0%	2,913	123.3%	26.9%	160	2,362	508	10,830	103	1,381
その他	0	-	-	0	-	-	0	0	0	0	0	0
全体合計	13,288	38.0%	28.7%	347,902	92.4%	53.3%	35,011	376,512	46,221	652,258	17,985	522,725
幼稚園・保育園							734	34,370	1,227	67,783	997	57,672
小学校							1,906	107,431	1,973	116,950	1,908	122,026
中学校							775	44,827	1,013	57,146	973	60,711
高等学校							349	14,790	629	18,227	400	15,772
大学・専門学校							404	5,672	415	8,832	364	7,239
特別支援学校							233	5,610	247	10,039	238	6,499
子ども会などの団体							1,588	51,281	1,910	63,780	1,324	42,007
学校などの団体							5,989	263,981	7,514	342,757	6,204	311,926
個人・グループ							33,603	258,260	56,565	469,292	20,146	429,320
外国人のグループ							389	3,008	627	19,197	157	2,638
その他							0	0	0	0	0	0
全体合計							39,981	525,249	64,706	831,246	26,507	743,884
調査回収率				74.2%			78%		95%			90%

### (4) 出前授業の実績

26年度上期に出前授業を実施したファシリテーターは45名、実施件数は136件となり、25年度に比べて減少した。要因としては、①調査票回収率の低迷、②ファシリテーター数の減少が挙げられる。

### (5) ファシリテーターの認証研修会

研修会実施に当たっては、酪農教育ファーム活動の背景や意義、酪農教育ファームファシリテーターの役割といった従来から実施してきた内容に加え、安全・衛生対策の時間の充実(受講者参加型を一部取り入れ)やチームワークワークに関するワークショップの導入など、新たな試みも取り入れた。

研修会は、札幌(平成27年1月15日~16日)、東京(同1月29日~30日)、大阪(同2月19日~20日)の3会場で開催し、計57名の参加を得た。

### (6) ファシリテーターのスキルアップ研修会

25年度から、地域推進委員会が主催するスキルアップ研修会が開催されることとなり、2年目となる26年度は、全国推進委員会主催で5回(北海道会場、東北会場、関東会場2回、九州会場)、地域推進委員会主催で3回(北陸、東海、四国)の計8回開催された。

全国推進委員会主催の研修会では、口蹄疫発生以降、安全・衛生のリスクを念頭に置きながら、酪農家と乳牛、あるいは酪農家のみが派遣されて、子どもたちに授業を行う

出前授業が全国的に行われるようになってきた情勢を踏まえ、出前授業に着目し、牧場における酪農体験と合わせて酪農家同士で意見、情報交換をすることで酪農体験の質を高め、スキルアップを目指した。一方、地域推進委員会主催の研修会では、地域の教育関係者を講師に迎え、地域独自の研修プログラムにより、酪農体験の質を高め、スキルアップを目指した。

### (7) 酪農家と教師の「出会いの場」作りのための研究会等

25年度に引き続き、各地域推進委員会が主体となり、認証牧場・ファシリテーターと教育関係者との「出会いの場」

作りとして、酪農体験等を盛り込んだ研修会や情報交換会を開催した。

また、広報活動の一環として、教育関係者に向け、業界紙に現在のトピックである道徳との親和性をはじめ、教育的効果や取り組んでいる酪農家の思いなどを掲載し、酪農教育ファーム活動への興味関心を高めるよう発信した。

## 2. 平成27年度酪農教育ファーム活動事業計画

平成27年度の酪農・国産牛乳乳製品理解促進広報活動は、引き続き①酪農の実態や酪農家の意向の把握、②酪農や国産牛乳乳製品の重要性の理解醸成、③酪農家・後継者を含む酪農家の意識啓発を図ることを目的とし、「日本酪農の存在意義」と「国産の牛乳乳製品の重要性」を訴求テーマとして中長期的に実施することとしている。

そこで平成27年度の酪農教育ファーム活動については、これを踏まえ、現行の認証制度及び推進体制のもと、防疫・安全・衛生に留意し、以下の活動を着実に実施することとする。

### (1) 活動の量的拡大・面的普及を図る事業

#### 1) 認証制度の適切な運営と認証審査・研修会の実施

新規ファシリテーター及び牧場の認証については、6月頃～11月末に指定団体を通じて募集。認証審査委員会の審査は12月中に実施。認証研修会は1～2月に全国3か所程度で開催。

#### 2) 酪農教育ファーム認証に係る広報活動等の実施

交流活動を行っている牧場（オープンファーム）が酪農教育ファーム認証を取得するよう情報を発信し、認証制度等に関する説明会を地域単位で必要に応じて適宜開催。全国段階においては、引き続き、酪農教育ファーム認証制度の紹介や酪農教育ファーム活動の持つ多様な価値と効用について、教育関係者や酪農関係者への効果が期待される専門誌等で情報を発信。また、全国の酪農関係者等が参集する場において、本活動の理解・浸透と認証取得への誘引を行うことを検討。

#### 3) 酪農家と教師の「出会いの場」作りのための研究会や情報交換会の開催

酪農教育ファーム地域推進委員会が主体となって、地域ごとに、認証牧場・ファシリテーターと教育関係者との「出会いの場」として、共同の研修会や研究会、情報交換会を引き続き開催。全国段階においては、酪農教育ファーム活動を主体的に実践する教育関係者を育成し、活動の裾野を広げていくことを目的として、首都圏を中心に幼稚園や小中学校の現場の教師を対象とした研修会等を実施。

#### 4) 酪農教育ファーム活動の教育的効果に関する社会的認知の促進

過去の調査研究結果等の普及については、教育関係者や酪農家・関係団体等に新聞・雑誌等のメディアを活用。社会的認知や理解を深めるため、教育関係団体と連携した研究会の開催等も模索。各種研究会やメディア等で効果的に広報するための調査やツールについて検討。

### (2) 活動の質的な向上を図る事業

#### 1) ファシリテーターに対するスキルアップ研修会の開催

27年度に認証期限となるファシリテーターが受講できるように、スキルアップ研修会を8月～11月の間に全国、地域で協力し、全国5会場（案：北海道、東北、関東、近中四国、九州）で開催。多様な研修ニーズが存在することを認識し、酪農教育ファーム活動をめぐる情勢を考慮した実践的な研

修プログラムを検討。

#### 2) 専門委員会の設置

酪農教育ファーム活動を推進するに当たり、基本方針等を検討するため、26年度に引き続き専門委員会を設置。27年度の早い段階で最終的な取り纏めを行い、順次反映可能なものから実行。専門委員会での協議に資するための情報を収集・分析するため、認証牧場やファシリテーターへの調査を必要に応じて実施。

#### 3) 教育関係者とファシリテーター等とのネットワーク構築と実践活動の充実

全国の教育関係者とファシリテーターの知見や活動成果を共有し、ネットワークを構築するための研究会等を開催。

#### 4) 乳牛を用いない「出前授業」に係る支援の検討

防疫上の課題やファシリテーターへの負担の軽減及び学校現場でのニーズの存在などから、乳牛を用いない「出前授業」について、実践に向けた研修会での対応や、支援素材の作成等、可能な支援について実施。

### (3) 活動を円滑に推進する事業

#### 1) 衛生・防疫対策に関しての酪農教育ファーム活動

引き続き、各研修会（全国及び地域）の中で安全・衛生を重視。認証牧場の申請時の現地審査、または現地検査（3年に1回）において、本会議が作成した生乳生産管理基準及び作業手順またはこれに準じる安全・衛生対策を実施しているか等、細かくチェックできるように様式の変更を検討。防疫・衛生対策に資する啓発ツール作成を検討。

#### 2) 推進委員会の開催

事業の円滑な推進を図るため、適宜、全国推進委員会を開催。全国推進委員会と地域推進委員会の合同会議については、重大な課題や制度変更など、全国・地域の連携や課題の共有化が求められる場合に開催することとし、27年度は実施しない。

#### 3) 地域推進委員会の開催及び活動の充実

地域推進委員会は、酪農教育ファーム活動の事業計画を作成して活動を推進。とくに、地域の教育関係者に対して地域の認証牧場に関するきめ細かな情報を提供するとともに、認証牧場と教育関係者との「出会いの場」作りを継続して積極的に促進。認証牧場における酪農体験学習のための安全な活動環境を整備するとともに、活動現場の多様な課題などの把握、個別課題への必要な支援を行うため、現地調査・指導を実施。

#### 4) ホームページなどの情報環境の整備や「感動通信」等による各種情報の提供

酪農教育ファームのホームページ（PC/携帯サイト）について、教育・酪農関係者双方が必要かつ最新な情報を取得できるよう適切に管理。教育関係者やファシリテーター等に対して、酪農教育ファーム活動に係る幅広い最新情報を「感動通信」（年4回発行）等を通じて提供。

#### 5) 関係団体との連携の強化

酪農教育ファーム活動の生産現場へのより一層の拡大・充実を図るため、交流活動をおこなう酪農家の全国的なネットワーク組織である地域交流牧場全国連絡会と連携。酪農教育ファーム活動を実践する教育関係者の全国的な組織である日本酪農教育ファーム研究会や、食育事業を推進する酪農関連団体等とも連携し、効果的な事業を実施。